

2020年度
(第56期)
事業計画書
収支予算書

自 2020年 1月 1日
至 2020年12月31日

公益財団法人 国立京都国際会館

目次

1. 2020 年度事業計画	・ ・ ・ P 3 － P 8
2. 2020 年度収支予算書等	・ ・ ・ P 9 － P 16

2020 年度事業計画

1. 2020 年度事業計画

総論

国立京都国際会館は 1966 年のオープン以来、多数の国際、国内会議開催の場となり、社会に貢献をしてきた。

2019 年度は、ニューホールが本格稼働したことにより、大型催事を中心に当館の稼働状況は好調であった。他方、開館して 53 年を過ぎ、雨水浸透や音響設備の不具合、樹木の老化など施設の経年劣化の影響が具体的に現れている。そのため施設の修繕、改修等の費用の今後の増加は避けられず、また、国内外で会議場施設の増設が進み、誘致競争もますます激化している。

このように、当財団を取り巻く環境は予断を許さない状況下にあつて、当財団は今後とも、50 年先を見据え、引き続き日本を代表する国際会議場としての役割を果たしていきたい。このため、職員一人ひとりの意識と能力を高めつつ、事業収益の安定化を図り、当館施設の維持更新と機能強化に取り組む。

そこで、2020 年度は、2019 年度事業計画で打ち出した 4 つの柱

- (1) 新たな事業推進力の構築と組織力の向上
- (2) 戦略的営業の展開による使用料収入と事業収益の向上・安定化
- (3) 持続可能な施設運営・管理体制
- (4) 危機対応力とセキュリティ強化

のもとで、具体的な取組をさらに前進させていくこととした。

また、昨年稼働を始めたニューホールについては、本来の要望規模である 4,000 m²のホールが実現できるよう、京都市及び京都府等とともに強力に国へ働きかけていく。

（１）新たな事業推進力の構築と組織力の向上

＜取組方針＞

2019 年度には、若手・中堅職員を中心とする「営業改革推進本部」を立上げ、目指すべき理念として「お客様の立場になって、今より一歩前進し、行動できる国立京都国際会館」を設定した。また、当館が今後 50 年にわたって存続・発展するための目標数値として「年間使用料収入 18 億円、年間利益 2 億円」を設定した。

また、この理念及び目標の下に、既に若手・中堅を中心とした部を超える組織横断的な体制を構築し、様々な具体的取組を進めているところである。

2020 年度には、「営業改革推進本部」の提言を受けて、2019 年度に着手した具体的取組を実現にまで推し進めるとともに、職員のそれぞれのステージに応じた役割を示したキャリアプランを整備し、それに基づく研修を具体化させるなど、事業推進力と組織力の向上を図る。

＜具体的取組＞

- ① 「館内の誘導標示等の刷新」、「軽食や喫茶の提供等を通じたパブリックスペースの有効利用」等のために立ち上げた部横断的組織における、若手・中堅を中心とした取組の継続と実現
- ② 目指すべき理念と目標達成に向けた課題解決への新たな取組の着手
- ③ キャリアプランに基づく階層別研修や専門研修等の職員研修の実施

（２）戦略的営業の展開による使用料収入と事業収益の向上・安定化

＜取組方針＞

会場稼働の日毎の変動を最小限に抑え、安定した収入を確保するため、2018年度下期から、「新・営業対策活動」を掲げ、(a)医学会、(b)医学以外の学術会議、(c)企業・団体主催会議、(d)リピーター会議と４つの対策分野に分け、それぞれの最適な時期に効果的なアプローチを行ってきた。

2019年度はさらにきめ細かな数値目標のもとに取り組んだ結果、使用料収入18億円の目標数値を達成する見込みである。

2020年度は、目標達成に向け、「増収増益を実現するセールス」、「長期的な価値を創造するマーケティング」に取り組み、顧客から選ばれる会議場を目指していく。

＜具体的取組＞

①増収増益を実現するセールス

(ア) 分野毎の受注目標数値達成に向けた取組

- a. 医学会リピーターを中心とした早期に決定する大型医学会の誘致
- b. 科学技術、地球環境、芸術文化、経済、法律等の学術会議の誘致
- c. グローバル企業の国際会議や大型ビジネスイベントの利用促進
- d. 新規顧客の継続利用促進と休眠顧客の掘り起こし

(イ) 顧客満足度の向上に向けた取組

- a. 「京都コンgres受入れ運営本部（仮称）」の設置
- b. 海外案件の増加に伴う顧客ニーズへの対応および受入体制の強化
- c. 飲食提供業務におけるサービスおよびクオリティーの向上
- d. ニューホールの利用促進に繋がる商品プランの企画

②長期的な価値を創造するマーケティング

(ア) デジタルマーケティングへの移行

- a. 他施設に先駆け、会場の予約から契約までの手続きをオンライン化し、情報セキュリティ対策を強化
- b. Web や SNS を利用したデジタルプロモーションの推進

(イ) ICCKyoto ブランドの確立

- a. 海外見本市や商談会への継続したプロモーションの実施
- b. 海外の主要なコア PC0*とのネットワーク強化

*註) コア PCO とは

国際学会の国際本部と契約し、その学会・協会が主催する国際会議の企画を行う会議運営会社。開催地選定の事前調査も請け負い、大きな影響力を有している。

(3) 持続可能な施設運営・管理体制

<取組方針>

開館から 53 年が経過し老朽化が進む施設の維持管理及び機能の向上を図るため、2019 年度は搬入通路橋の舗装改修工事や機械警備システム設置工事等を、当財団予算により計画的に進めた。また、長年、国に要望していた本館屋上防水工事が補正予算によって認められ、来年 3 月の完成に向け工事が進捗している。

物品等の調達については、入札制度を基本とする調達規程の改正や、公募プロポーザル方式により年間業務委託事業者の選定を行うなどの抜本的取組により、競争性、公平性を高める取組を推進した。

2020 年度は引き続き、現在策定を進めている国立京都国際会館施設中長期保全計画を確定し、これに基づき国に対して必要な予算確保を強く働きかけるとともに、計画的な施設の維持管理や機能の向上に取り組む。また、装飾・映像等の協力会社制度の見直しを進める。

<具体的取組>

① 施設の維持管理及び機能の向上

- (ア) 中長期保全計画の明確な見通しに基づく、国土交通省、財務省への必要な予算要望の働きかけ
- (イ) 中長期保全計画に基づく、当財団予算による計画的な施設の改修及び音響・映像機器の更新
- (ウ) 照明の LED 化の更なる推進
- (エ) 日本庭園の修景事業の実施による魅力ある庭園の再生
- (オ) 桜の名所としての魅力の発信（岩倉川周辺や日本庭園における老木化した桜の計画的な植え替え）

② 顧客サービス向上に向けた施設整備

- (ア) 軽食や喫茶を提供するためのカクテルラウンジのリニューアル
- (イ) 来館者により分かりやすい案内サインの改修
- (ウ) フリーWi-Fi 通信エリアの計画的な拡大

③ 調達制度の見直し

- (ア) 現行の協力会社・指定業者制度を見直し、公募により事業者を選定する登録制度の導入
- (イ) 年間業務委託事業者との意見交換会の実施

(4) 危機対応力とセキュリティ強化

<取組方針>

2019 年度は、台風や大雨対策等の自然災害の各種リスクに伴う対応について、体制の整備や職員の訓練を充実させるなど、対応力の強化に努めてきた。

また、セキュリティ強化のため、機械警備システムの充実・強化に着手した。

2020 年度には、顧客の安全確保への取組をさらに強化する。

<具体的取組>

- ①災害発生時の催事主催者・参加者への情報伝達の仕組みの構築
- ②当財団職員及び協力会社スタッフの訓練の充実による、火災・自然災害等から当館利用者の安全を守る自衛消防隊の危機対応力の強化
- ③機械警備システムの導入と運用の習熟を急ぎ、その活用による、「第 14 回国連犯罪防止刑事司法会議」をはじめとする開催催事のセキュリティの強化

2020 年度収支予算書

1. 2020 年度収支予算等

2020 年度収支予算（正味財産の増減）の概要は以下の通りである。

（ア）収入

- ・ 使用料収入 19 億円（対2019 年予算比 3 億5,000 万円の増収）
- ・ その他収入 1 億1,250 万円（対2019 年予算比 250 万円の増収）
- ・ 合計 20 億1,250 万円（対2019 年予算比 3 億5,250 万円の増収）

（イ）支出

- ・ 合計 18 億1,450 万円（対2019 年予算比 2 億5,350 万円の増額）

（ウ）収支差額（正味財産増減額）

- ・ 合計 1 億 9,800 万円（対 2019 年予算比 9,900 万円の増額）

2020年度 予定貸借対照表

(単位：千円)

科 目	当年度(2020)
I. 資産の部	
1. 流動資産	
現金	4,804
預金	497,815
未収金	249,000
販売物品	100
流動資産合計	751,719
2. 固定資産	
基本財産	
指定正味財産	375,950
一般正味財産	224,050
計	600,000
有形固定資産（通常運用）	
建物・工作物	94,022
建物附属設備	340,556
工具器具備品	527,750
立木	1,000
茶室建物・付属備品	76,993
茶室備品	3,018
リース資産	18,834
(計)	1,062,173
減価償却累計額	△ 741,545
計	320,628
有形固定資産（第一次運用）	
工具器具備品	53,475
減価償却累計額	△ 47,397
計	6,078
有形固定資産（第二次運用）	
工具器具備品	19,785
減価償却累計額	△ 19,784
計	1
有形固定資産（第三次運用）	
工具器具備品	53,031
減価償却累計額	△ 53,030
計	1
有形固定資産（第四次運用）	
工具器具備品	88,949
減価償却累計額	△ 88,946
計	3
有形固定資産（随時運用）	
工具器具備品	459,717
減価償却累計額	△ 459,377
計	340
無形固定資産	
会議ソフトウェア	3,551
通信加入権	93
計	3,644
基本財産計	930,695
特定資産	
退職給付資金	198,200
特別修繕引当金	19,050
2020年度特定費用準備資金	19,000
2020年度資産取得資金	20,000
飲食施設改修準備資金	110,000
計	366,250
特定資産計	366,250
固定資産合計	1,296,945
資産合計	2,048,664

(単位：千円)

科 目	当年度(2020)
II. 負債の部	
1. 流 動 負 債	
未払費用	89,000
前受金	56,000
一時預り金	12,000
職員預り金	11,000
短期リース負債	4,068
未払法人税等	15,000
未払消費税等	16,000
流動負債合計	203,068
2. 固 定 負 債	
保証預り金	60,600
長期リース負債	3,051
退職給付引当金	198,200
特別修繕引当金	19,050
固定負債合計	280,901
負 債 合 計	483,969
III. 正味財産の部	
1. 指 定 正 味 財 産	
基本財産	375,950
指定正味財産合計	375,950
2. 一 般 正 味 財 産	
基本財産	224,050
事業運営財産	330,695
2020年度特定費用準備金	19,000
2020年度資産取得準備金	20,000
飲食設備改修準備金	110,000
繰越金	485,000
一般正味財産合計	1,188,745
正味財産合計	1,564,695
負債及び正味財産合計	2,048,664

2020年12月31日予定

2020年度 予定正味財産増減計算書

2020年1月1日から2020年12月31日まで

(単位:千円)

科 目	当 年 度 (2 0 2 0)
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
使用料収入	1,980,000
会場使用料収入	1,900,000
飲食宿泊施設使用料収入	55,000
駐車場使用料収入	22,000
売店使用料収入	3,000
地下鉄連絡通路料収入	8,000
自主企画事業料収入	15,000
基本財産等運用益	4,500
その他収入	5,000
経常収益計	2,012,500
(2) 経常費用	
事業費	1,797,185
人件費	418,770
委託費	262,500
運営費	848,925
維持管理費	238,990
地下鉄連絡通路維持費	9,000
自主企画事業費	19,000
管理費	17,315
人件費	4,230
法人運営費	11,075
維持管理費	2,010
経常費用計	1,814,500
当期経常増減額	198,000
2. 経常外収益	
(1) 経常外収益	0
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	0
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
税引前当期一般正味財産増減額	198,000
法人税等	15,000
当期一般正味財産増減額	183,000
一般正味財産期首残高	1,005,745
一般正味財産期末残高	1,188,745
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	375,950
指定正味財産期末残高	375,950
III 正味財産期末残高	1,564,695

2020年度 予定正味財産増減計算書内訳表

2020年1月1日から2020年12月31日まで

(単位:千円)

科目	公 益 事 業 収 益				公 益 事 業 収 益				法 人 会 計	内 部 取 引 消 去	合 計	
	公益1	公益2	共通	小計	収益1	収益2	収益3	共通				小計
I 一般正味財産増減の部												
1. 経常増減の部												
(1) 経常収益												
① 使用料	1,615,000	0	0	1,615,000	285,000	58,000	22,000	0	365,000	0	0	1,980,000
会場使用料	1,615,000			1,615,000	285,000				285,000			1,900,000
飲食施設使用料				0		55,000			55,000			55,000
駐車場使用料				0			22,000		22,000			22,000
売店使用料				0		3,000			3,000			3,000
② 地下鉄連絡通路料				0			8,000		8,000			8,000
③ 自主企画事業料		15,000		15,000					0			15,000
④ 基本財産等運用益			4,500	4,500					0			4,500
⑤ その他収入				0		5,000			5,000			5,000
経常収益計	1,615,000	15,000	4,500	1,634,500	285,000	63,000	30,000	0	378,000	0	0	2,012,500
(2) 経常費用												
① 事業費	1,473,929	29,885	0	1,503,814	253,046	8,980	31,345	0	293,371	0	0	1,797,185
人件費	345,168	4,230		349,398	60,912	4,230	4,230		69,372			418,770
委託費	207,018	2,500		209,518	36,532	725	15,725		52,982			262,500
運営費	717,234	2,145		719,379	126,571	2,015	960		129,546			848,925
維持管理費	204,509	2,010		206,519	29,031	2,010	1,430		32,471			238,990
地下鉄連絡通路維持費				0			9,000		9,000			9,000
自主企画事業費		19,000		19,000					0			19,000
② 管理費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17,315	0	17,315
人件費				0					0	4,230		4,230
法人運営費				0					0	11,075		11,075
維持管理費				0					0	2,010		2,010
経常費用計	1,473,929	29,885	0	1,503,814	253,046	8,980	31,345	0	293,371	17,315	0	1,814,500
当期経常増減額	141,071	▲ 14,885	4,500	130,686	31,954	54,020	▲ 1,345	0	84,629	▲ 17,315	0	198,000
2. 経常外収益												
(1) 経常外収益												
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用												
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	0	0	47,640	47,640	0	0	0	▲ 47,640	▲ 47,640	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	141,071	▲ 14,885	52,140	178,326	31,954	54,020	▲ 1,345	▲ 47,640	36,989	▲ 17,315	0	198,000
法人税等				0				15,000	15,000			15,000
当期一般正味財産増減額	141,071	▲ 14,885	52,140	178,326	31,954	54,020	▲ 1,345	▲ 62,640	21,989	▲ 17,315	0	183,000
一般正味財産期首残高			1,036,451	1,036,451				▲ 12,181	▲ 12,181	▲ 18,525		1,005,745
一般正味財産期末残高	141,071	▲ 14,885	1,088,591	1,214,777	31,954	54,020	▲ 1,345	▲ 74,821	9,808	▲ 35,840	0	1,188,745
II 指定正味財産増減の部												
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	375,950			375,950								375,950
指定正味財産期末残高	375,950			375,950								375,950
III 正味財産期末残高	517,021	▲ 14,885	1,088,591	1,590,727	31,954	54,020	▲ 1,345	▲ 74,821	9,808	▲ 35,840	0	1,564,695

2020年度 収支予算

2020年1月1日から2020年12月31日まで

(単位：千円)

収 入 の 部	
科 目	当年度(2020)
使用料	(1,980,000)
使用料収入	1,900,000
飲食宿泊施設使用料収入	55,000
駐車場収入	22,000
その他収入	3,000
利息収入	(4,500)
基本財産利子	4,400
受取利息	100
その他収入	(5,000)
地下鉄連絡通路収入	(8,000)
自主企画事業収入	(15,000)
合 計	2,012,500

2020年1月1日から2020年12月31日まで

(単位:千円)

支 出 の 部	
科 目	当年度(2020)
人件費	(423,000)
職員給料	253,000
期末手当	79,200
退職金	23,000
通勤手当	9,800
法定福利費	56,000
福利厚生費	2,000
委託費	(265,000)
会場設営費	45,400
駐車場費	15,000
館内案内費	25,000
警備費	42,500
清掃費	48,100
電気機械保守費	72,500
派遣費・報酬等	16,500
運営費	(857,500)
電力使用料	96,000
ガス使用料	60,000
水道使用料	16,000
広報宣伝費	13,000
通信運搬費	6,500
運営用消耗品費	23,000
会場運営諸費	643,000
管理費	(241,000)
修繕保守費	75,000
庭園保守費	40,000
交際接待費	6,000
旅費	12,000
事務印刷費	28,000
保険料	3,800
会議行事費	1,000
諸会費分担金	5,000
諸費	2,200
減価償却費	68,000
地下鉄連絡通路費	(9,000)
自主企画事業費	(19,000)
当期収支差額	(198,000)
合 計	2,012,500

うち、特定費用準備金額

34,000

資金調達および設備投資の見込みについて

(1) 資金調達の見込みについて

資金の借入予定はございません。

(2) 設備投資の見込みについて

当期中の設備投資の見込みは以下の通りとなります。

区分	設備投資の内容	予定額	備 考
購入	館内防犯カメラ設置更新	50,000千円	資産取得資金より取崩
購入	館内誘導標示等更新	10,000千円	資産取得資金より取崩
合 計		60,000千円	